

2 調査結果の分析・活用について①（学校担当者用）

事務連絡（令和3年8月2日付け）再掲

学校担当者用

令和3年度埼玉県学力・学習状況調査

調査結果の分析・活用について



本調査は、本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進することを目的としています。

各小・中学校におかれましては、調査結果から、①各学校の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④検証を行うといったサイクルの確立につなげていただけたらと考えています。

県教育委員会では、各小・中学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析・活用の例を作成しました。各小・中学校におかれましても、独自の分析等と併せて御活用ください。

分析・活用の手順

分析

①学年全体の学力の伸びを把握し、分析する。→【帳票28】

- ・学年別、教科別の学力の伸びの様子がグラフで示されています。
- ・県の学力の伸びの様子と比較して特徴が見られる部分を確認します。

②学級の学力の伸びを把握し、分析する。→【帳票42】

- ・帳票を前年度の学級ごとに並べ替え、「学力の伸びの平均」や「学力を伸ばした児童生徒の割合」が計算されています。
- ・学校全体で良い取組を共有することを目的とし活用します。学力の伸びが見られた学級や教科を確認します。

活用

○学力を伸ばした先生が行っている効果的な取組を学校全体で共有する。

- ・学力を伸ばした学級や教科の担当者からの聞き取りや、学力を伸ばした教員の授業参観等を行い、効果的な取組を共有します。

その他

分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見付け改善を図る。→【帳票11】

- ・「学力」「学力の伸び」「学習方略」「非認知能力」「生活習慣」等の関係から、自校の成果や課題を見付けます。

埼玉県教育委員会

【帳票28】を活用した分析

分析①

学年全体の伸びを把握し、分析する。

○【帳票28】「各実施主体の調査結果票」から自校の概要を捉える。

→ 「平均学力レベルの状況」や「学力階層別の状況」を分析する。

(1) 平均学力レベルの状況

【分析①】学力の伸び幅の違い

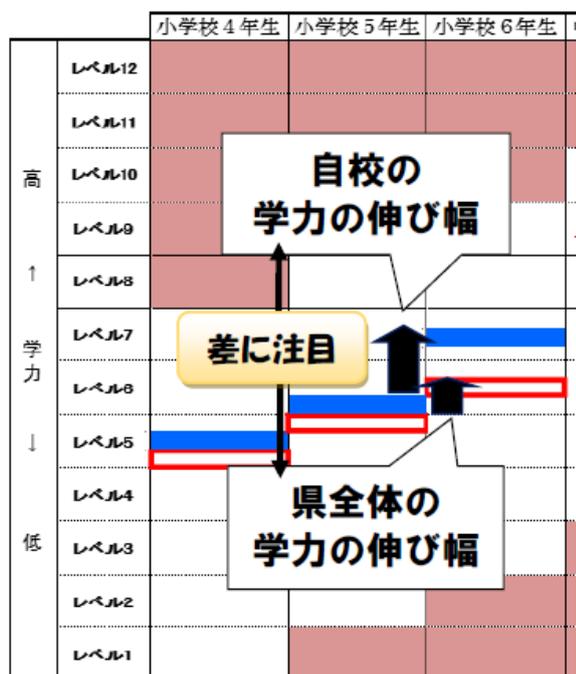
→ 伸び幅が県平均よりも大きい学年や教科を見付ける。

【分析②】学力レベルの違い

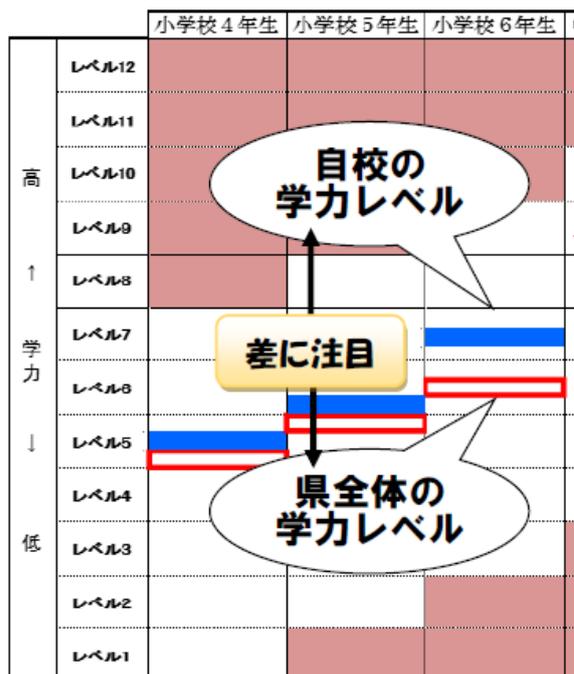
→ 学力が県平均を上回っている学年や教科を見付ける。

→ 学力が他学年の同時期を上回っている学年や教科を見付ける。

【分析①】学力の伸び幅の違い



【分析②】学力レベルの違い



※【帳票27】では、異なる年度の同学年と、学力のレベルを比較することができます。

※【帳票33】では、学力を伸ばした児童生徒の割合や、学年全体の学力の伸びが分かります。



「伸び幅が大きい」、「学力のレベルが高い」といった学年や教科は、効果的な指導や取組を行っている可能性があります！

(2) 学力階層別の伸びの状況

【分析①】 学力層別の学力の伸びの状況

→ 各学年の中で傾きが大きい学力層を見付ける。

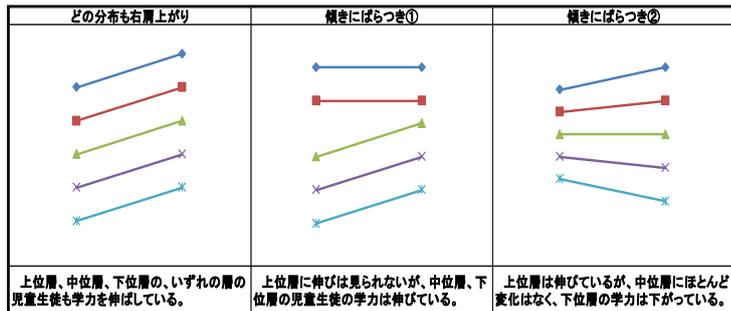
【分析②】 埼玉県のグラフの傾きとの比較

→ 県平均よりグラフの傾きが大きい学年や教科を見付ける。

【分析③】 各学力層の学力レベル

→ 県と比較して、学力レベルが全体的に高い／低い、学力階層によってレベルが高い／低いなどの傾向を見付ける。

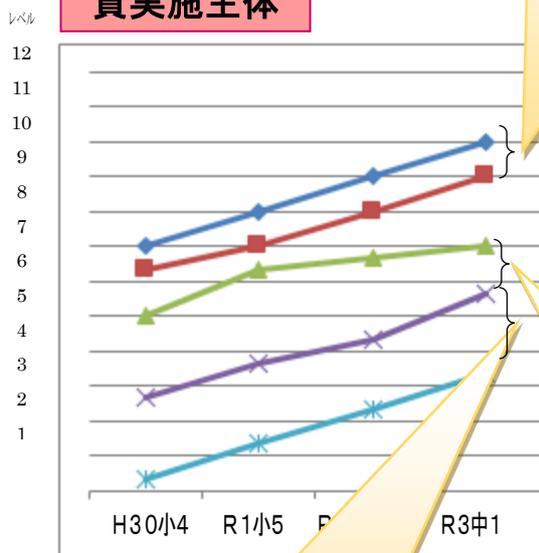
<グラフの見方>



- ◆ ⇒ 最大値(最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル)
- ⇒ 75%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ▲ ⇒ 中央値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- × ⇒ 25%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- * ⇒ 最小値(最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル)

分析例

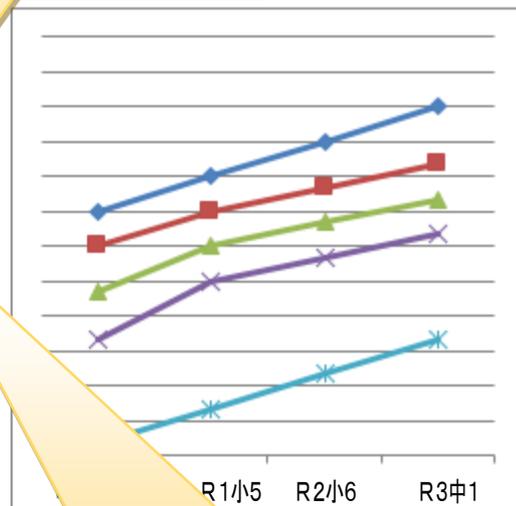
貴実施主体



下位層のグラフの傾きが
県のグラフより傾きが大きい
⇒ 下位層への充実した支援が
あったのではないかな。

学年の中で上位層の学力のレベルが高い
⇒ 上位層を伸ばす工夫があったのではないかな

埼玉県



中位層の学力が伸び悩んでいる
⇒ 前学年でのつまずきがあるのではないかな。

※【帳票26】では、各学年・各教科の「学力の伸びの状況」を一覧で見ることができます。

【帳票42】を活用した分析

分析②

学級の学力の伸びを把握し、分析する。

○ 【帳票42】 学力分析データ（前年度在籍クラスを基準にした学力の伸び・学習方略・非認知）クラス別

→ 前年度の「学力の伸びの平均」や「学力を伸ばした児童生徒の割合」を分析

分析例

令和3年度埼玉県学力・学習状況調査(旧小学校6年生)

学力分析データ(前年度在籍学年・クラスを基準にした伸び・学習方略・非認知)

●●市立〇〇〇小学校

※各数値は、R2、R3調査をともに実施した児童生徒を集計対象としています。
 ※R2児童生徒数は、昨年度質問紙を含むいずれかの教科を実施した児童生徒の数を表しています。
 ※学力を伸ばした児童生徒は、「学力レベル(3分割)」を数値化(例:1-Gは"1", 12-Aは"36")したとき、昨年度より数値が1以上増加している児童生徒となります。
 ※学力の伸び率(学力レベルの差の平均)については、集計対象となる児童生徒の「学力レベル(3分割)」を数値化(例:1-Gは"1", 12-Aは"36")して計算しています。
 ※「主体的・対話的で深い学びの実施」、「学習方略」、「非認知能力」の数値の範囲は1.0~5.0となっており、数値が高いほどよい値となっています。

前年度の学級で
並べ替えてあります！

R2 学年	R2 組	R2児童生徒数	学力を伸ばした児童生徒の割合(%)		学力の伸び率 (R3学力レベルとR2学力レベルの差の平均)		R3学力レベル 平均		R2学力レベル 平均		主体的・対話的で深い学びの実施
			国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数	
		埼玉県平均	77.9	68.2	2.7	1.9	22.3	19.8	19.6	17.9	-0.6
6	1	35	85.7	82.1	3.5	2.5	23.9	21.0	20.4	18.5	-0.8
6	2	35	71.4	75.0	2.0	2.8	21.9	20.7	19.9	17.9	-0.7
6	3	35	83.3	60.0	3.2	1.5	20.8	17.8	17.7	16.3	-0.9

【例】1組は、ベテランの担任が担当クラスの学力等を順調に学力伸ばしている。
 ⇒学級経営に定評のある担任が、他の2人へ学級経営のノウハウを共有

【例】2組は算数、3組は国語の指導で大きく成果を上げている。
 ⇒担任の教科専門性が高いことが考えられるので、得意な教科のよい指導方法を共有

※【帳票42】は、今年度の児童生徒の調査結果を、前年度の学級に戻して集計した帳票です。本年度の調査結果を前年度の指導の成果として検証することができます。特に、中学1年生の調査結果については、出身小学校の6年生の学級に戻し、小学校にデータを返却しています。これにより、小学校6年生のときの学級での指導を検証することができます。また、学習方略や非認知能力等の伸びも検証することができます。

R2 学年	R2 組	R2→R3(変化量)										
		主体的・対話的で深い学びの実施	学習方略						非認知能力			
			柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人際リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	学習意欲(興味)	
		埼玉県平均	0.0	0.1	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	-	-0.1	-
6	1		0.1	0.3	0.3	0.4	0.2	0.3	0.1	-	0.0	-
6	2		0.3	0.4	0.2	0.3	-0.1	-0.1	0.1	-	0.2	-

1 担当からの聞き取りや、授業参観により、よい取組を把握します。

【方法例① 担当からの聞き取り】

- 前年度、伸びている学年、教科を担当した教員から、学年全体や教科指導で取り組んだことや、共通して実践した指導方法、指導のポイント等の聞き取りを行う。

＜聞き取り例＞

- ・ 子供たちと接するとき、心がけていること（前向きな言葉かけ、一緒に遊ぶ等）
- ・ 授業の導入場面での工夫（興味をもたせる導入、めあて・見通しのもたせ方等）
- ・ 授業の展開場面での工夫（言語活動の充実、ペア・グループ活動の設定等）
- ・ 授業の終末場面での工夫（まとめの仕方、振り返りの充実等）
- ・ 学年で指導を徹底した取組（規律ある態度の指導、ノート指導、掲示物の工夫等）
- ・ 家庭学習の与え方（目安の時間の設定、チェックシートの活用、予習・復習等）

聞き取りの
ポイント

- ・ 上記の例を参考に、より具体的に、詳細を聞き取ってください。
- ・ 新たな取組や工夫した取組などにも着目して聞き取ってください。

【方法例② 授業参観】

- 前年度、学力等を伸ばした教員の授業を校内で参観する機会を設け、授業で見られたよい取組を把握する。

＜参観の視点の例＞

- ・ 主体的な学びを実現するための工夫
（学習目標や見通しのもたせ方、まとめと振り返りによる学習の定着等）
- ・ 対話的な学びを実現するための工夫
（互いの考えの比較検討の工夫、教師と子供・子供同士の双方向の対話の実現等）
- ・ 深い学びを実現するための工夫
（問題解決的・探究的な学習の実践、思考を深める発問や板書等）
- ・ 言語活動の充実（描写、要約、説明、記録、報告等を文章等でまとめる活動等）

参観の
ポイント

- ・ 授業後の協議が深まるよう、参観するポイントを示すなどの工夫をしてください。

2 「聞き取りの結果」や「授業参観の感想」等、分析結果を資料にまとめ、全体で協議、意見交換します。



校内研修例

協議例1 どのような学力状況にある子供を重点的に伸ばしていくか。

- 学力が下位で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 「自分の考えを書くことが苦手」で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 伸びている子供を、もっと伸ばしたい。
(例えば伸びが著しい子供が中位層に集中している学校など)

協議例2 学年(学校)として、どのようにして伸ばしていくか。

- 効果的と思われる取組を学年(学校)に広げたい。
- 学校の強みとして表れている項目を地域・保護者に広めたい。

3 仮説を設定し、それに基づく取組、検証を行います。

- 協議、意見交換を経て仮説を設定し、それに基づいた効果的な取組を共有します。
- 取組を実践し、効果について検証を行います。

● 学年(学校)、教員独自の**仮説を設定**し、仮説に基づく取組、検証を行う。

<仮説> (協議・意見交換により設定)

例「授業などで、自分の考えを、理由を付けて発表したり書いたりする機会を増やすことで、学力が伸びる子供たちが増える。」

<重点項目> (本校の実態及び協議・意見交換から設定)

例 ① 学力の階層が低い子供へのきめ細かな指導を行う。

② 授業規律を大切にする。

※ 上記①②は全教員で重点化して取り組む。

その他

分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見つけ改善を図る。

活用例① 「質問紙調査」と「学力の伸び」を視点とした分析
——「どのような児童生徒が学力を伸ばしているのか？」——

手順1 「①クロス集計（「学力の伸び」の階層と児童生徒質問紙の項目）」のシートを開く。

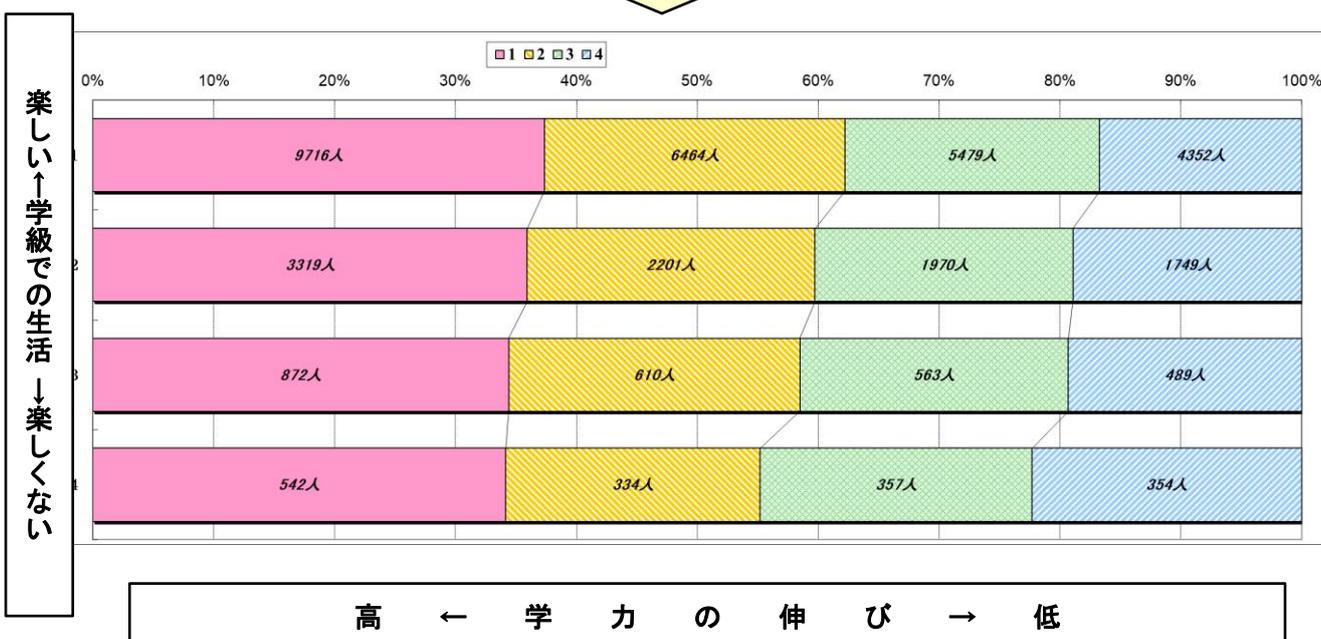
手順2 縦軸カテゴリーで質問紙調査の項目を選ぶ。

横軸カテゴリーは学力の伸び、教科を選ぶ。

縦軸カテゴリー⇒ 質問《（小5）学級での生活は楽しかったですか》

横軸カテゴリー⇒ 学力の伸びの階層_算数

フルダウンで選択するだけでクロス集計の帯グラフが出来ます！



上の帯グラフは、「(前年度の)学級での生活は楽しかったですか」と「算数の学力の伸び」のクロス集計です。

※上の例は、令和3年度小学校第6学年（全県）のデータを読み込んだものです。今年度の各学校のデータから分析し、学校の実態に合った有効な取組を検討しましょう。

※「分析支援プログラム」は、結果帳票のCD-ROMにデータで入っています。

※詳細な操作については、「活用マニュアル」を参照してください。活用マニュアルも、結果帳票のCD-ROMに「小（中）学校用_分析支援プログラム活用マニュアル」というファイル名で入っています。

活用例②

「他項目との関連の強さ」を視点とした分析

——「学校として何に取り組むのが有効か？」——

埼玉県学力・学習状況調査分析支援プログラム<小学校6年生 関連探索>

探索項目⇒ 算数【領域等】《量と測定》成績階層

プルダウンで選択するだけで相関係数のリストが出ます！

手順1 「④関連探索」のシートを開く。

手順2 探索項目を選ぶ。

探索項目(相関係数が高い順に表示)	相関係数
算数【観点】《数量や図形についての技能》成績階層	強く関連 0.804
算数【観点】《数量や図形についての知識・理解》成績階層	やや強く関連 0.755
算数【観点】《数学的な考え方》成績階層	やや強く関連 0.723
算数【領域等】《数と計算》成績階層	やや強く関連 0.706
算数【領域等】《図形》成績階層	やや弱く関連 0.634
算数【領域等】《数量関係》成績階層	やや弱く関連 0.614
国語【領域等】《伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項》成績階層	やや弱く関連 0.550
国語【観点】《言語についての知識・理解・技能》成績階層	やや弱く関連 0.550
国語【領域等】《話すこと・聞くこと・書くこと》成績階層	やや弱く関連 0.511
国語【領域等】《読むこと》成績階層	0.496
国語【観点】《読む能力》成績階層	0.496
国語【観点】《書く能力》成績階層	0.453
国語【観点】《話す・聞く能力》成績階層	0.409
質問《しょう来どの学校まで進みたいと思いますか》	0.326

- ・相関係数が0.8以上のときは **強く関連**
- ・相関係数が0.7以上のときは **やや強く関連**
- ・相関係数が0.5以上のときは **やや弱く関連** と表示が出ます。
- ・相関係数が0未満のときは 相関係数の値が**赤字**で表記されます。

上の例は、探索項目に「算数【領域等】《量と測定》成績階層」を選択したものです。多くの項目と相関関係が出ています。

※上の例は、令和3年度小学校第6学年（全県）のデータを読み込んだものです。今年度の各学校のデータから分析し、学校の実態に合った有効な取組を検討しましょう。

※「分析支援プログラム」は、結果帳票のCD-ROMにデータで入っています。

※詳細な操作については、「活用マニュアル」を参照してください。活用マニュアルも、結果帳票のCD-ROMに「小（中）学校用_分析支援プログラム活用マニュアル」というファイル名で入っています。